

平成18年度 岡上こども文化センターの管理運営に対する評価について

1 指定管理者

(1) 指定管理者	特定非営利活動法人川崎児童健全育成会コッコロ(川崎市宮前区野川4037-1 エルホーム野川1-207)
(2) 指定期間	平成18年4月1日～平成23年3月31日
(3) 業務の範囲	岡上こども文化センターの管理運営に関する事 岡上小わくわくプラザの管理運営に関する事

2 事業に関する事

評価項目	平成18年度管理運営の状況	評価及び指導
(1) 施設の運営に関する職員体制に関する事	主任職員の配置や変則勤務の実施(早番・遅番)を行った。また、アドバイザー職員を配置し、こども文化センターにおいては、主に館長の指導や行事開催時の業務補佐、わくわくプラザにおいては、リーダー職員の補佐や、障害児対応への指導を含めた職員への相談を行った。研修については、わくわくプラザ障害児巡回相談、各種研修会への参加、児童厚生員等各種資格の取得を行い職員のスキルアップを図った。	アドバイザーを配置し、館長への指導やわくわくプラザ職員への指導相談等を行っていたことは評価できる。 職員の研修については、各種研修等を実施しており、中でもわくわくプラザ障害児巡回相談を行い、わくわくプラザでの障害児に対するスタッフのスキルアップに努めていたことは評価できる。
(2) 施設の管理運営に対するニーズ等の把握に関する事	運営協議会の実施や、地域の祭礼等への積極的な参加などで18年度は地域との関係性を深めることに重点を置いた。また、利用者の様子を観察し、その中でニーズを把握して各種遊具等の充実を図り、利用者の増加に努めた。	地域等と積極的に関わることでニーズの把握に努めていたが、子ども会議が未開催となっているなど、ニーズ把握の手法も含め検討し、運営への反映に努めること。
(3) サービスの提供に関する事	様々な行事を企画・実施することにより、こども文化センター・わくわくプラザの存在の認知という役割も果たすことができた。 障害児への対応については、アドバイザーによる職員への指導やわくわくプラザ障害児巡回相談を行った。 その他、施設内レイアウトの見直しや施設内外の環境整備の徹底、団体利用の方法について整備を行いサービスの向上を図った。	管理面での利用者サービスについては、こども文化センターの小破修繕や清掃等に努めていたことは評価できる。 障害児への対応については、アドバイザーを配置し、わくわくプラザスタッフの指導等を行っていたことは評価できる。
(4) 事業の実施に関する事	こども文化センターについては、各種行事を開催し、特に「えいがの日&だかし屋さん」については、年度当初に比べ多数の子どもが参加するようになった。また、乳幼児とその保護者のために、すぎのこ保育園、麻生保健福祉センターと協力し、岡上子育てあんしん広場を月に1回程度開催した。さらに1月より「岡っこサロン」を実施し、合計9回実施で延べ363名の参加があり好評を得た。 わくわくプラザについては、こども文化センターとの合同行事も含め様々な行事を実施しており、多数の子ども達が参加し、異学年間交流を図った。また、「科学のふしぎ」や「動物園に行ってみよう」などの行事も行い、魅力ある行事の実施に努めた。 広報活動として、センター便りの発行(月1回)や、ホームページの開設(年間約3,000件の閲覧)を行った。	自主事業については、こども文化センターにおいて保育園や保健福祉センターと協力し継続した事業を行ったことは評価できる。 広報については、ホームページ等を使った広報活動は評価できる。 今年度は事業計画にあるクラブ活動が未実施であったため、今後はクラブ活動の実施を検討すること。
(5) 個人情報の取扱に関する事	わくわくプラザ申込書などの個人情報の記載された書類の管理に関して、施錠できるキャビネットに保管する等の処置を取った。パソコンデータに関しては、セキュリティソフトの導入などで、外部からのアクセスから防御する対策を実施した。	個人情報の収集や保存等取り扱いは適正に行われている。19年度も研修をはじめ、個人情報の保護の徹底を図ること。
(6) 施設の安全管理に関する事	施設内外の整備清掃を徹底し、小破修繕についても可能な限り修繕した。特にこども文化センターにはAED(自動体外式除細動器)の設置をした。また、わくわくプラザについては防犯カメラを設置し、保護者等からも好評を得ている。その他にも避難訓練等を実施した。	こども文化センターについては、施設の安全確保のため補修や清掃を行った。また、AED(自動体外式除細動器)の設置を実施する等、積極的に安全な管理運営に努めていたことは評価できる。 わくわくプラザについては、施設の維持補修だけでなく、防犯カメラを設置し、利用者の安全に配慮していたことは評価できる。

3 利用状況

評価項目	平成18年度管理運営の状況	評価及び指導
(1) こども文化センター	(1) 年間延べ利用者 14,489人 (2) 年間延べ団体利用数 147団体 ア 青少年団体 8団体 イ 市民活動団体 57団体 ウ 幼児グループ 47団体 エ その他 35団体 (3) 主な行事 (参加人数) ア 岡上ふれあい祭り 800人 イ もちつきのつどい 100人 ウ ワンデイシアター 94人	一番利用者の多かったものが、岡上ふれあいまつりで、800人が集まった。次年度についても、今年度の利用状況を精査し、広報活動や魅力的な行事を行うことで更なる利用者の増加に努めること。
(2) わくわくプラザ	(1) 登録数(19年3月統計) 183人 (2) 登録率(19年3月統計) 58% (3) 年間延べ利用児童数 9,885人 (4) 障害児登録数(19年3月統計) 4人 (5) 年間障害児延べ利用数 361人 (6) 主な行事 (参加人数) ア スチールドラムライブ 100人 (小学生とその家族対象) イ オリジナルケーキを作ろう 45人 ウ さんぽにいこう 42人 ～こどもの国～	わくわくプラザ利用児童だけでなくその家族も参加できる行事を実施した。次年度も今年度の利用状況を精査し、日常の活動やイベント、安全への配慮等に工夫をし、事業の実施に努めること。

4 経費の執行に関すること

評価項目	平成18年度管理運営の状況	評価及び指導
(1) 平成18年度経費執行状況	平成18年度指定管理料 31,580,000円 費目 支出額 1 人件費 28,380,952円 2 管理費 4,058,771円 3 事務経費 1,412,866円 4 合計 33,852,589円	経費の執行については指定管理料以上の支出となった。今後については、事業執行の妨げにならないよう、計画的かつ適正な執行に努めること。

5 管理運営(事業執行)に対する全体的な評価

特定非営利活動法人川崎児童健全育成会コッコロは、岡上こども文化センターと岡上小学校わくわくプラザの指定管理者として管理運営を実施した。平成18年度は指定管理者として1年目であったが、独自の観点から事業の拡充を図っていたことは評価できる。

職員体制として、独自に実務経験豊富なアドバイザーを配置することにより行事の実施に際してスタッフへの指導や相談を行った。また、研修については、障害児対応研修や児童厚生員研修、普通市民救命講習などを行い、わくわくプラザの障害児への対応についてもスキルアップを図っていた。安全な管理運営の一環としては、こども文化センターへのAED(自動体外式除細動器)の設置や、わくわくプラザへの防犯カメラの設置により、より一層安全な管理を行えるよう工夫するなど積極的に事業を実施していた。その他行事の実施に関しては、こども文化センター及びわくわくプラザにおいて、イベント等の実施を積極的に行い、また、こども文化センターにおいて麻生保健福祉センターや保育園と連携した岡上子育てあんしん広場を開催するなど地域や行政との連携による活動を行うことにより事業の充実を図っていた。

6 来年度の管理運営(事業執行)に対する指導事項等

こども文化センターについては、事業計画にあるクラブ活動の積極的な実施を検討すること。また、地域のニーズの把握について、収集のための手法も検討し更なる実施に努めること。また、子ども会議の積極的実施に努めること。

わくわくプラザについては、今後も施設の安全管理を徹底し、継続して魅力的な行事の実施に努めること。

経費の執行については、事業実施の妨げにならないよう留意し、計画的かつ適正な執行に努めること。

また、業務の達成度を明確にし、職員が業務に積極的に取り組めるよう、目標設定できる事項に関しては、数値目標を定め、達成に向けて取り組むこと。